

# Library News



2022.12.19 山梨英和中学校・高等学校 図書室

今回の Library News では、図書委員会イベントについてと高校3年生がおすすめする本を掲載します。また、裏面では電子図書館 (E-Library) の特集もしています。

## 図書委員会イベント 2022.12.8 グリンバンクチャペル

毎年恒例の「図書委員会イベント」で、ブックフィルムフェスティバル校内上映会、留学生 (2名) からの楽しみ企画 (出身国紹介) を行いました。

ブックフィルムフェスティバルでは、中1の生徒が『くらげ』という本の動画を作成、紹介をしてくれました。留学生からの楽しみ企画では、Rawint と Kristine がそれぞれタイとフィリピンの説明をしてくれて、とても勉強になりました。

最後は、雑誌の配布やビンゴ大会で盛り上がり、参加者は充実した時間を過ごすことができました。



タイ料理



## 高校3年生の図書委員が おすすめする本



『ゲーテ詩集』ヨハン・ヴォルfgang・フォン・ゲーテ／著

シューベルトはゲーテの詩を使って作曲していました。有名な作品は、「魔王」や「野ばら」。他にもあまり知られていない美しい作品がたくさんあります。年代順で書かれているので、1冊読むとゲーテの恋人の美しさ、人生の葛藤、不満、晩年になると、それらを全て受け入れ、人生を達観した考えの作品もあります。私が最も好きな詩は、「うぐいすは久しく姿を見せなかったが めぐる春に誘われてまたやってくる。何にも新しい歌は覚えてこないで 古いなじみの歌ばかり歌っている。」ふとした時に読みたくなります。

『植物図鑑』有川浩／著

OLのさやかが、家の前でおなかのすいて倒れていた青年いつきを拾ってことから話が始まります。二人はルームシェアして生活することになり、いつきの趣味である野草採取に一緒に出かけ、植物で作る料理と一緒に楽しむようになりました。さやかは料理が得意ではなかったけれど、いつきと出会い、食に対する意識が変わりました。現在は、効率を重視した食物を食べる機会が多いけれど、食を大切にすること、おいしさで幸せになること、毎日を丁寧に生きる大切さをこの本から学ぶことができると思います。

『檸檬』梶井基次郎／著

えたいのしれない不吉な魂によって主人公は日々の幸せを見いだせず、空想世界にふける日々を送っていた。そんなある日、通りにあるお気に入りの果物屋さんに立ち寄ると、珍しく檸檬が並んでいた。なんの変哲もないただの檸檬。しかし、それが彼の世界を大きく変えていく。

筆者の多彩な語彙によって普段の生活や、他の作品では感じられない感覚が全身に巡り、独特の世界観に引き込まれていくと思います。短い作品だからこそ、最後の最後まで先がよめない展開に翻弄されながら読んでみてください。

『世界から猫が消えたなら』川村元気／著

ある日、主人公の「僕」は脳腫瘍と診断された。帰宅すると悪魔がいて「世界から何か一つ消すと1日の命を得ることができる」という奇妙な提案をされる。最初は、電話、次に映画、そして時計が世界から消えていく。しかし、一つ一つのが消えると同時に、それらに関する思い出も消えてしまう。悪魔は、猫を消す提案を「僕」にした。しかし、「僕」と猫の間には、どうしても消したくない大切な思い出があった。「僕」がした選択と結末。この本は、2016年に映画化もされました。私は、この本も映画も大好きです。猫好きには、絶対に心に刺さる作品です。

『麦本三步の好きなもの』住野よる／著

『君の臍臓をたべたい』という作品で有名な住野よるが書いた小説で、主人公は図書館勤務の20代女子です。少し抜けている性格や好きなものをたくさん食べたり、のんびり過ごしたりと何気ない日常が描かれています。毎日がたいくつだと感じている人に是非読んでいただきたいです。この本は2巻まで出版されていて、3巻はのんびり準備中だそうです。漫画にもなっているので、小説が苦手な人にもおすすめです。読んだ人は、三步の魅力にはまってしまいます！

『BLACK JACK』手塚治虫／著

『BLACK JACK』は漫画の神様、手塚治虫の代表作の一つです。無免許ではあるが唯一無二の神業といえるテクニックで、世界中に名を知られる天才外科医を主人公に、「医療と生命」をテーマに、生きること死ぬことについて考えさせられる作品です。医療漫画ではありますが、作品の中で繰り広げられる壮大な人間ドラマも見どころです。普段は冷酷で人間味のないブラック・ジャックが、時折見せる優しい一面。助手であるピノコとの微笑ましい日常も、この作品が広く愛される所以です。手塚治虫が描く世界に飛び込んでみてください。

